

平成30年度 自己評価表 (最終報告)

松山南高等学校 (全日課程)

学校番号(22)

教育方針	国家社会の有為な形成者として、広く世界的視野に立ち、新しい文化の創造と発展に寄与する若人の育成を期する。	重点目標	志高く、未来を切りひらく人材を育てる — 国際的視野とキャリアデザイン能力の育成 —
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
自己実現の支援・個性伸長の支援	生徒の自己実現の積極的な支援	1日平均家庭学習時間： 学年＋2時間	C	1年生平均154分(-26分) 2年生平均147分(-93分) 3年生平均267分(-33分)	家庭学習時間調査を家庭学習強化週間と位置づけ、その意義を理解させるとともに、早めに進路意識を持たせる。
		現役生の国公立大学合格者数： 250人以上	B	3月末時点で現役生は241名が合格(国立大学197名、公立大学44名である。昨年同時期より、10名増。	大学入試センター試験と、2次試験に両方に対応できる力を身に付けるとともに、近年増加している小論文や集団面接に臨む基盤を培う。
		現役生の難関国立大学合格者数： 20人以上	B	3月末時点で、合格者は10名である。昨年同時期より1名減。これと別に愛媛大医学部医学科に1名合格。	難関大学に挑戦しようとする意欲を育てるために、1・2年生の段階から、大学見学などに積極的に参加させる。個別指導により高い学力を身に付けさせる。
		全国模試平均偏差値：60以上	B	進研模試で1年生60.9(2回)、2年生60.4(2回)、3年生文系56.4、理系54.0(5回)である。	課題を教員間で共有し、情報交換を進めながら、バランスのとれた学習ができるように配慮する。苦手克服に根気強く取り組む。
	生徒の個性・能力の伸長の支援	部活動加入率：90%以上	B	全校生で89%の入部率である。1年生の入部率が下がり、かつ途中退部者も多い。	学習活動とのバランスを取りながら、休養日の設定や活動場所の確保など、充実した活動ができる支援や環境づくりを心掛ける。
		県高校総体出場種目数(人数)： 全種目出場(230人以上)	B	数値目標の設定を低くしたが、全種目出場はかなわず、226名の参加数であった。	校外施設の利用等、練習環境を整えて効率の良い活動ができる態勢を支援する。
		体育部において：四国大会出場 6部以上、全国大会出場4部以上	A	四国6部、全国5部と目標を達成し、全国入賞、入選、県初優勝など、質の高い結果を残した。	部の統廃合も視野に入れながら、個々の活動の質を高めるような練習環境の整備を心掛ける。
		県高校総文祭優秀賞： 6部門以上	A	吹奏楽、合唱、美術、囲碁、自然科学、文芸など6部門で優秀賞を受賞した。	校内外で文化的活動の成果を披露する機会を増やし、活動意欲を高める環境づくりに努める。

豊かな教養の涵養・豊かな人間性の育成	豊かな教養と広い視野を備えた生徒の育成	全国レベルの科学コンテスト 入賞数：3件以上	A	全国での入賞10件、全国での賞や愛媛県での入賞を合わせると33件であり、昨年度から飛躍的に増えた。	初めての受賞や応募など、積極的な取組が見られた。引き続き、生徒・指導教員の意識改革に力を入れ、課題研究や科学系部活動の活性化を図る。
		理数科生徒のAO・推薦入試 合格者数：10人以上	C	国公立大学推薦4名、AO2名、(私立大学推薦0名)が合格し、合計6名であった。	SSHでの経験から、自分の特性を生かした進路目標を設定し、実現させていきたい。
		創作活動や各種コンテスト等への チャレンジ：1件/人以上	A	「国語」と「情報」合計で一人5件以上の感想文・標語等の応募を行った。任意の応募にも積極的に参加し、好成績を収めた。	各種コンクールにチャレンジできる環境を整え、個々の可能性を広げる機会を促す。
	心身共に健康で人間性豊かな生徒の育成	出席率：99%以上 不注意による遅刻者数： アンダー300	B	1/21現在、出席率1年生は98.4%、2年生98.7%、3年生98.2%、不注意による遅刻は延べ273人であった。	昨年に比べ遅刻者は減少し目標値をクリアしたが、欠席者はやや増加した。より一層魅力ある学級・学校づくりに努めたい。
		いじめ問題発生件数：0件	B	いじめを認知する事案、いじめにつながる恐れのある事案とも0件であった。	事案として発生しなかったのは良かったが、いじめにつながる芽の早期発見と意識向上に努めたい。
		重大交通事故発生件数：0件	B	重大事故発生は0件であったが、事故報告件数は例年並みであった。	大事に至っていない事案は例年並みに起こっている。交通マナーを含めた、安全に対する積極姿勢を涵養すべく、継続して指導していきたい。
		「オール南高」の意義を理解できた生徒の割合：70%以上	B	オール南高の芸術・文化発表会には1・2年生で509人71.4%が参加した。砥部分校の卒業制作展鑑賞、野球応援・文化祭交流、砥部焼の共同研究等を進めた。	それぞれの持つ歴史や文化風土、地域貢献に対する敬意を抱きつつ、グローバルな視点での海外交流等を行いたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。